


活動報告

2000年度(2000年4月1日～2001年3月31日)

- ①第10回総会及び講演会開催 (7月)  
講演会「移植医療の現状」  
講師 菊地耕三氏  
(日本臓器移植ネットワーク近畿ブロックセンターチーフコーディネーター)
- ②会報「Gift of Life」Vol.8 創立10周年記念号発行 (7月)
- ③第10回全国移植者スポーツ大会助成 (9月)
- ④神戸新聞に記事体広告掲載 (10月)  
「腎移植で普通の暮らしを」兵庫県内53万部配布
- ⑤世界移植者スポーツ大会へ寄付 (3月)
- ⑥臓器移植を考える県民大会主催 (3月)

2001年度 活動計画(2001年4月1日～2002年3月31日)

- ①会報「Gift of Life」Vol.9 発行 (6月)
- ②第11回総会及び講演会開催 (7月)  
講師 星長清隆氏(藤田保健衛生大学泌尿器科教授)
- ③「世界移植者スポーツ大会」に協力 (8月～9月)
- ④神戸新聞に記事体広告掲載 (10月)
- ⑤「腎友会30周年記念大会」に協力 (10月)
- ⑥「臓器移植を考える県民大会」に協力 (10月)



# Gift of Life

兵庫腎疾患対策協会会報

2001.6/1

Vol. 9

発行：兵庫腎疾患対策協会  
住所：〒659-0093 芦屋市船戸4-1ラポルテ4F(安井眼科内) TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144



**ご挨拶**

神戸大学大学院医学系研究所  
腎泌尿器科学分野 教授  
兵庫腎疾患対策協会  
会長 守殿貞夫

平成9年に臓器移植法が制定されて以来、13例の脳死下臓器移植が行われ我が国もようやく心臓、肺、肝臓などの脳死後の臓器移植が徐々に行われるようになりました。しかしながら、その数は欧米に比べてはるかに少ないのが現状です。その上心臓死下で行われていた腎移植までが増えるどころか低速の一途をたどっています。これについては様々な原因が言われていますが、結局のところは脳死下と心臓死下の臓器提供に関する法律が異なり、心臓死下の移植では提供者の患者さん本人の同意は必ず家族の方の同意さえあれば臓器提供が可能となるを、脳死下と同様に提供者本人の同意を必要とすると誤解されているからではないでしょうか。

じっとしては、この低速の状態から抜け出すことはできず、臓器移植の数が増えることは決してないでしょうから、この誤解を解くためにも移植医療に携わる医療関係者は何か新たな行動を起こさなければならないと思います。

今最もたいせつなのは国民全体の移植への意識を高めることであり、そのためにも移植医療が多くの患者さんに幸福な人生を提供していることをよく知ってもらうべきです。ここにこそ本協会の役割があるのではないかと考えます。臓器を提供することがいかに多くの患者さんに感謝されているかを日頃からもっと国民が知るようにならないと肉親の突然の死を目のあたりにして決してその臓器が提供されることはないでしょう。さらに臓器提供病院においては院内にその活動の中心となるスタッフを配置し、院内はもちろん地域住民にも臓器提供をはじめ移植医療の普及啓発に努めていただくことが重要だと考えます。

移植医療が成り立つのに最も重要なのは、多くの国民の方に普段から移植に興味を持っていただくことです。そして、臓器を提供すれば喜ばれる患者さんがおられるというのを何かの時には頭に思い浮かべていただけた方が一人でも増えることを願っております。それには私どもを含めて臓器移植ネットワークの皆様方にもぜひご参加いただき、もう一度地に足のついた地道な啓蒙運動が必要なのではないかと思えます。

今後さらに関係各医療機関および国民が一体となって21世紀の移植医療に貢献できるように色々な角度からこの運動に取り組んでいくことが重要であり、本協会も更なる努力が要求されるところであります。

2001年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

神戸大学大学院医学系研究所 腎泌尿器科学分野 教授 <b>会長 守殿貞夫</b>	住吉川病院顧問 <b>副会長 藤田嘉一</b>	県立尼崎病院名誉院長 <b>藤岡 農 宏</b>	兵庫医科大学名誉理事 <b>森村美佐子</b>
神戸大学大学院医学系研究所 腎泌尿器科学分野 助教授 <b>幹事 荒川 創 一</b>	兵庫医科大学名誉教授 <b>生駒文彦</b>	日本臓器移植ネットワークコーディネーター 高砂市民病院名誉院長 <b>菊地耕三</b>	日本臓器移植ネットワークコーディネーター 三田・寺相泌尿器科医 <b>小中節子</b>
坂井瑞美クリニック院長 <b>坂井 瑞 実</b>	兵庫医科大学名誉教授 <b>杉本照子</b>	兵庫医科大学腎臓科学科教授 <b>高 光 義 博</b>	田口隆子 <b>寺 柚 一 徳</b>
兵庫腎友会会長 <b>豊 水 清</b>	甲南病院院長 <b>内 藤 秀 宗</b>	兵庫腎移植の会相談役 <b>中道弘一</b>	長久謙三 <b>八 馬 富 久 子</b>
県立西宮病院腎臓センター部長 <b>福西孝信</b>	神戸大学大学院医学系研究所 腎泌尿器科学分野 講師 <b>藤澤正人</b>	三木市民病院泌尿器科部長 <b>松本 修</b>	安井眼科医院長 <b>安井多津子</b>
兵庫医科大学 救命救急センター副部長 <b>吉 永 和 正</b>	国際ソロブニスト 神戸東代表	神戸大学名誉教授 <b>丸 正 四 郎</b>	兵庫腎友会相談役 播磨大塚病院理事 <b>芳野芳一</b>
	<b>会計監査</b>	<b>黒</b>	国際ソロブニスト 神戸東会長

第13回世界移植者スポーツ神戸大会

「いのちのリレー」  
**GOAL2001**



2001年  
8月25日(土)～9月1日(土)

- ユニバー記念競技場/陸上
- ポートアイランドスポーツセンター/水泳
- しあわせの村/テニス、ローンボウルス
- グリーンアリーナ/卓球、バドミントン
- 六甲ボウル/テニスピッチボウリング
- 北神戸ゴルフ場/ゴルフ
- 播磨中央公園/自転車
- 夢加田/60力国(予定)
- 参加人数/移植者1200人、役員及び家族800人(予定)

主催/第13回世界移植者スポーツ大会組織委員会  
共催/日本移植者スポーツ協会(神戸腎友会)  
(財)日本心臓財団・財団(大阪腎臓バンク)  
後援/外務省・文部科学省・厚生労働省・兵庫県・神戸市・  
兵庫腎疾患対策協会 他



## 兵庫県腎友会設立 30周年を迎えて

NPO兵庫県腎友会  
会長 豊永 清

腎不全を宣告されると尿毒症で死を意味していた時代に、人工透析が患者に大きな光明を与えました。「金の切れ目が命の切れ目」といわれた、透析患者にとって苦難の時代をのりこえて「兵庫県人工腎友会」が1971年3月7日に結成されてから、満30周年を迎えることができました。

この歳月の軌跡は、先輩たちが築いた遺産をよりどころに、家族や腎臓病に携わる多くの先生とパラメディカルの方々に支えられ、また、多様な社会資源の恩恵をうけながら歩んで来た道のりでありました。

その中で、多くの患者が家庭に、職場に、学校に復帰し「より良く生き、生活する」ことができるようになりました。この節目に当たり、この喜びを今一度確認し、長年にわたりご理解とご支援くださいました方々に対し、改めて感謝の意を表したいと存じます。

昨年末には、NPO法人の認証を得ることができました。これからは社会的に認知される団体として、腎臓病に苦しむ人々に頼られる活動に取り組む所存でございます。来る10月28日には、設立30周年とNPO法人の設立を記念した、大会と祝賀会を開催すべく鋭意準備を進めております。皆様方には、ぜひ、ご来場のうえ、叱咤激励いただきますことを心よりお待ちしております。

現在、県下の透析患者は9,000人(会員は70% = 6,300人)に及び、その平均年齢61歳、導入年齢は63歳となり、更に糖尿病腎症に由来する患者が近年急増したこともあって、今の透析患者は、自立して社会参加する者と、高齢化し障害の重度化、重複化に苦しむ者の二極化傾向にあるといえます。

こんな中で、透析歴30年以上の患者(会員)が6人(男4、女2)生存されています。透析医療の黎明期を切り抜け「鶴亀を超越した生命力」として祝福を贈ります。

## 兵庫腎移植の会 10周年を迎えて

兵庫腎移植の会  
相談役 中道 弘一

私達兵庫腎移植の会は平成3年の春に県立西宮病院の腎移植の患者会と兵庫医科大学の同じ患者会が兵庫県内の一つの患者会へと発展的に合同して出来たものであります。その後神戸大学付属病院・いはらクリニック・神戸市立中央病院等の腎移植の患者が参加して現在160名ほどの会員数になっています。

私達が普通の生活を送れますのもひとえにドナーの方々をはじめ、日ごろお世話になっている各病院の先生方・医療スタッフの皆様のお陰であります。これまで私達は充分にいえませんが、定期的に機関誌を発行し患者間の意識疎通を図り親睦を深め移植推進月間などの行事にも参加して参りました。今回、10周年を迎えるに際し私達の会が設立された当時の目的、すなわち「腎臓移植の普及啓発」をもう一度思い起こして会員全員でその思いを新たにしたいと考えた次第であります。

平成13年4月1日午後12時より神戸元町の「ハレス神戸」で10周年の記念パーティが開催され、出席者は移植者とその家族、ご来賓を含め総数70名の参加を数えました。

ご来賓としては、兵庫腎疾患対策協議会会長 守殿貞夫氏を始め日本移植者協議会理事長 大久保通方様・兵庫県腎友会会長 豊永清様・副会長 高重靖様・事務局長 宮本高宏様・兵庫腎移植コーディネーター 曾我明美様・大阪移植の会会長 下野浩様・坂井瑠実クリニック院長 坂井瑠実先生・いはらクリニック院長 井原英有先生・県立西宮病院腎センター 福西先生・泌尿器科 市川靖二先生・兵庫医大泌尿器科 野島道生先生・善本先生・宮本先生・神戸大学移植チーム 藤澤正人先生方等多数の皆様のご参加下さいました。

ご祝辞の中で自分達の現在の状況を思い、涙して感ずる人も見られましたが和気あいあいの内にパーティが終わりました。長期生着者(会員の中で20年以上は13名で最長は27年の人です)へは記念品が贈られました。

今年は神戸で「世界移植者スポーツ大会」が8月25日より1週間にわたって行われますが、是非成功させたく皆様のご声援をお待ち申し上げます。

又将来的には全臓器の移植者の会が結成され、臓器移植によってよりよい生活が出来る人々が増えることを祈念しております。

風ひかる 移植者の顔 華やぎて

## 最近、腎移植について思うこと

神戸大学大学院医学系研究科  
腎泌尿器科学分野 講師  
藤澤 正人

今年の3月20日、早朝から家の電話が鳴りました。このような朝早い電話は、たいてい、病院かあるいはネットワークからの電話ではないかと思いつきました。案の定、ネットワークからの電話で、臓器提供の申し出があり、神戸大学のレシビエント登録患者が第1候補であるとの連絡でした。しかも、脳死下での腎の提供とのことでした。

生体腎移植は、ほぼ月に1例ぐらい行っていますが、献腎移植は久しぶりで、兵庫県では県立西宮病院に続いて2例目の脳死腎移植でした。早速、大学病院へ向かい、移植の準備をはじめました。摘出された腎臓が夜の10時頃に搬送されてきて、その日の夜の11時過ぎから手術をはじめ、翌日の午前3時頃終了しました。今回は脳死下での提供でしたが、今までの献腎では術後1~2週間の透析が必要でしたので、あまりすぐに尿がでるとは期待していませんでした。しかし、午前4時頃より少しずつ尿がスタート、以後順調に尿量が増加し、術後一度も透析をせず離脱でき、現在移植腎は順調に機能し、患者さんの良好です。

彼女は20歳代で、結婚式を控えていましたが、突然にレシビエント候補になり、気持ちの整理がつく間もなく腎移植を受けましたが、現在、病棟回診の時には本当に明るく笑顔を病棟で見せてくれ、患者さんの良好です。一方では、肉親の突然の死を迎えることになった家族にとっては耐えられない悲しみの中で、臓器提供を決断しなければならぬ状況は非常につらいことであつたと思います。しかし、この家族の勇気ある決断により、この臓器提供のおりには、心臓、肝臓、肺も移植され、ひとりの臓器提供によってひとりの患者さんだけでなく多くの患者さんが移植をうけることができ、ほんとうにすばらしいことだと思います。

ただ、平成9年より現在までにこのような脳死下での臓器提供は13件で、まだまだ臓器不足の状態が続いています。脳死下での臓器提供は、いろいろな条件がそろっていることが必要で、とくに生前の本人の臓器提供の意志が明確で

ないといけないことをご存知のことと思います。したがって、ドナーカードの普及ならびに生前の意思表示は臓器提供数が増えるためにたいへん重要です。ただ、このような脳死下での臓器提供以外に、腎臓のみの提供の場合は心臓死下でも可能で、本人の生前の意志が無くても、家族の同意があれば提供できることをご存知でしょうか。このことを、脳死下での臓器提供でないと移植はできないと考えている方々には、再認識していただく必要があります。

さらに、このように臓器の提供の啓発の前に、根本的に一般の皆さんが移植とはどのようなものであるかをもっと知っていたかかないと、それに繋がる臓器提供については無関心でしょう。移植によって、どんなに喜んでくれる患者さんがいるかもっと一般のひとに伝えて、認識を深めてもらう必要があります。今回、臓器提供を受けた彼女は週3回の透析から解放されて、生活リズムも一変しました。やがて結婚し、子供を産むこともできるでしょう。透析をしてはなかなかむずかしい出産が可能になったことで彼女の未来はさらに大きく広がるにちがいありません。今後、このような移植をうけた方々からのメッセージも移植普及啓発の大きな力となると思います。

一般の方々への臓器提供施設も、臓器提供に対する日頃からの努力が必要だと思います。神戸大学病院でもずっと以前に臓器提供があつて以来、ここ数年ありません。臓器提供施設として、今何をすべきかもう一度再考する必要があります。たとえば、このような臓器提供施設それぞれで、移植や、臓器提供についての定期的な講演会や普及啓発活動が必要だと思います。それによって、医療従事者の臓器提供に対する思いも違ってくるのではないのでしょうか。

まだまだ臓器提供の啓発活動は十分ではなく、充実した移植医療のためにも医療従事者ももっともって努力を注ぐべきであると感ずる今日この頃です。

## 第11回 総会のご案内

日時 7月14日(土)PM4:00~

場所 ホテルオークラ神戸 松風の間

内容 総会……………PM4:00~4:30

講演会及び研修会 講師/星長 清隆氏(藤田保健衛生大学泌尿器科教授)……………PM4:30~6:30

「当施設における心停止ドナーからの献腎摘出法と献腎移植成績に影響を及ぼす諸因子について」

懇親パーティー……………PM6:30~8:00(会費1万円)